

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

當局者の心事

政府の當局者と自由黨との結託は公然表せられて政界に新生面を開きたり目下の政黨中にて黨員の最も多き自由黨が政府に賛成とあれば國會の議場に於ても多數を制するもならん當局者も一先づ安心にして此程世間に噂したる大隈伯入閣の談なども先づ以て塵束なきに似たり然らば政府は飽までも自由黨に依り他の反對に當りて成敗共に事を終始するの決心なりやと云ふに我輩の所見を以てすれば其結託は當局者が自ら爲めにする一時の方便には非ずやと竊に疑はざるを得ず抑も日清戦争の成績は前古未有の偉業にして事を全うしたる其大功名は當局者の一身に歸して之を争ふものがある可らず一般に許す所なれども盛名の下は非毀譽望の集點にして古來大功名を博して終を善くしたるものは其た少なし智者の戒む可き所にして戦争結局の後、身に餘る勳爵の榮を辱うしたる時の如きは引退の好機會なり自から地位を去て一時反對の氣格を避るは進退の妙を得たるものなりしならん或は本人の心事は全く反對にして偶然の大功名に大得意を催はして獨り自から地位の高々を夢みたるやも知る可らずと雖も彼の干渉事件と云ひ又今回の朝鮮事件と云ひ以てなく世間に非難の聲を高めて所謂責任論の喧しさを致したり本來干渉事件の處分は實力如何の問題にして何人をして局に當らしむるも今日の國情に於ては他に分別もなかる可し又朝鮮事件とて其の歸する所は自から明白なるに拘はらず目下の事情、殊に喋々して責任を論ずる場合に非ず靜に人々の心に聞へば何れも合點する所なれども如何せん社會の人情は一般に反對の方向に傾き當局者の舉動とあれば何か難癖を付けて功過共に非難するの風を催はしつゝあるが故に目下の責任論の如きは尙ほ未だ靖寧を感ずるに足らずと雖も今後政局の困難は自から想像するに難からず當局者決して愚ならず昨今に至りては大に悟りたるものとならん餘りも地位を守りて滿社會の非難を一身に集むるときは折角の功名榮華を傷けざるを得ず此處に對して反對の氣格を避て身を退けば再び志を得るの機會なきに非ず其利害得失は自から明白にして覺悟は既に定まかなながら何分にも時機の宜しからざるは議會招集の眼前に切迫したる一事なり議會を前にして退くときは反對論に展開して敵に背を示すの嫌なきに非ず國家の好まざる所なり左ればとて開會の議を如何と云ふに軍機洩露の如きは滿洲國情を見ざるもならん然れども情海の反動、意外に責任論などが成立して解散の期行、止むを得ざるに至るもあらんにはまず一機を失つて進退に窮せざるを得ず是れ又智者の事に非ずとて彼れは其進取の中に在野の元老を入れて負擔を分ち一身の關係を離れんとするの思案も浮びたるものとある可し大隈伯入閣の噂なども此邊の意味より生じて

金鷄勳章

- | | | | |
|------|--------|------|--------|
| 陸軍少將 | 長尾 恒次 | 陸軍少將 | 市田 幸次郎 |
| 陸軍中將 | 川崎 伊勢雄 | 陸軍中將 | 松本 健三 |
| 陸軍中將 | 石原 綱治郎 | 陸軍中將 | 三宅 兵吉 |
| 陸軍中將 | 石川 勇 | 陸軍中將 | 笠原 龍太郎 |
| 陸軍中將 | 村上 信太郎 | 陸軍中將 | 立石 花吉 |
| 陸軍中將 | 小石 常明 | 陸軍中將 | 天崎 真八 |
| 陸軍中將 | 寺崎 慎助 | 陸軍中將 | 川村 恒福 |
| 陸軍中將 | 山崎 次郎 | 陸軍中將 | 加茂 才太郎 |
| 陸軍中將 | 藤田 大助 | 陸軍中將 | 内山 嘉市 |
| 陸軍中將 | 藤田 大助 | 陸軍中將 | 黒住 武 |
| 陸軍中將 | 藤田 大助 | 陸軍中將 | 山本 敏之助 |

清國新開港場視察記

第六報 (十一月十二日) 在上海

蘇州雜信一東 時事新報特派員 堀井卯之助

蘇州の宿屋 余は珍田總領事と共に暫く火神廟にありしが權原陳政氏の來着するに際し居室なきを以て支那宿屋に轉せんと欲し珍田氏の小使(支那人)に伴はれて宿屋内の某處に至る此邊には公館客棧と稱して支那官吏の投宿する家少なからざれども余の外國人なるが故にや一言の下に客室なしとて之を拒むもの多く殆ど困難を極めたる未遂に就き就する家に入りたり此家は先年日本人の投宿したる事あるよしにて一老嫗出で迎へ喜んで余を居室に導きたるが室内の不潔は恰も我々本國宿屋の如く塵埃一個、菓子一脚、椅子二三脚を備へたるのみにて塵埃山を爲し常人の堪へ難き程なれども余は從軍中支那の不潔に馴れ居るを以て敢て意に介せず其儘投宿せり小使は彼の老嫗と問答し余に告げて曰く一日二食、部屋代を合し百五十文(十五錢)に過ぎずと須臾にして彼は辭し去れり余固より支那語に通せず身

明治廿八年十一月二十日水曜日
舊曆乙未十月四日 (辛未)
出版時間
日出版九時三十分
月出版九時三十分
年出版九時三十分
西曆一千八百九十五年
三百二十四日
四十一日

強ち無根に非ざりしならんれども對手には自から對手の注文ありて政府全體の事情を見れば容易に行はる可きに非ず是に於てか思案一轉、自由黨が近來舉動を一變して其鋒鏑を收め政府に近づかんとするの色あるを幸ひ之を引一時、事を共にするの得策を認め扱ては結託の實を見たる次第には非ざるか自由黨の勢力大なりと云ふと雖も一たび政府と結ぶときは他の反對黨は自から一致結合してまず一反對の勢を盛ならしむるは勿論、又政府の部内にもれはく、苦情を生じて折合の困難を來さざるを得ず實際に必然の成行なるに然るに事を見るに機敏なりとの評判ある當局者にして敢て此策に出でたりとは一時の多數を制して兎に角に今度の議會を無難に切抜け夫れを機會に功名榮譽を全うして一身を潔うするの方便には非ずやと我輩の竊に推測する所なり果して然らば自由黨は忽ち頼る所を失ひ單に政府黨の名を博するに止まるのみなれども其事は自から別問題として擱き除所ながら他の心事を付度したるに過ぎず其當否は我輩に於ても自から知らず只事實の判斷に一任せんのみ

身此處に宿するは宛然一個の啞子に異ならず頼む處は一片の紙と三寸の筆のみなれども余の不學なる既往の經驗によれば筆談を以て充分に己が意志を貫徹せしむるを得ざれば其不便言はん方なく只茫然たる事數刻日暮るゝに及んで一碗の米飯と野菜の素付を持來りたれども茶も湯もなければ食物殆ど咽を下りず直に筆を取りて事情を問へば錢を以て買來るべしと答ふ余の茲に氣付かざりしは抑も亦野暮の極か即ち錢を與へて鵜卵、茶、菓物等を求めしめ漸く晚餐を終へ食後通信を認めんと欲して燈火を求む豆油の光薄くして殆ど字を書するを得ず已むなくして携ふる處の夜具、毛布等を延べ其儘腰に就きたり翌朝は食物の給仕なきを以て支那菓子、鵜卵などを買ひ漸く腹を肥すのみ支那宿屋の不便大凡斯の如し内地に旅行せんとするものは上海に於て夜具、食器、食料等を準備し小使を伴ふにあらざれば時に或は腹食に窮する事あらんか平日は月給四圓内外を以て小使を雇ひ得るも近來日本人の旅行者多きに連れ箱本邦の語に通ずる小使は給料甚だ高く殊に其雇入期短き時は日給三十錢乃至四十錢位を要す乗船の状況 余は上海に於て調査すべき事項少なからざるを以て領事に先ちて一先同地に歸る事となり蘇州より單身の乗船に乘込み其状況を審みしるを得たれば重ねて茲に記載すべし門外には船の周旋屋甚だ多く客引の番頭互に余に向て乗船を勧む余は小使をして小蒸汽船に乘らんと欲するの意を告げしめ遂に番頭に伴はれて同船に至る乗客三人既に内にあり余を合して僅に四人なれども船内は狭小にして四肢を伸ばすを得ず乗船賃は食物を合し一圓四十錢の約束なりしかば之を拂て切符を受け取り後更に船員に渡す事普通の人物にして常に亞片を喫し余をして不快に堪へざらしむるも詮方なければ之を忍びたり夕刻に至り晚餐を供し食器、食物共に宿屋に比すれば稍々上等にして四人共に箸を交へ終りて後快く寝に就けり此小蒸汽船に奉かるゝ支那船は僅に三艘なりしかば此日午後六時過蘇州を發し翌日午前七時半頃上海に着す支那船に乗込むものは五十餘内外の運賃にして所謂下等なれば窮屈の極他の見る目も氣の毒なり單身此地に入るもの須らく小蒸汽船によるべし

明治

一日に三十里を 横濱 敵の悪人小野清 流石根本と立て 吉(三十九年)と 表の穢業は世を 出しては賣捌き 居れる手長嶽 妻のホカカを退 門町を音信れて が廻て西久保も 何處へかフ 夫してレタカを 隠所を探して 其儘横濱(形を といふ塵屋が所 可なる下宿屋へ) 見せ掛けて之を 節とや思ひけん みし品々金銀を れなん廿五年の 話立戻つて驚視 夫婦を拘引し怪 却て又根本の大 呼び居りし小野 村瀬原と云ふ二 せられ共陽炎の 方角さへ尋ね飽 と知られたる彼 立戻りて新橋の めも注目さ にもなき世世流 身を曲此ん爲 と覺たり好し 今や二人が新橋 くと跡より附け

電報郵便 蘇州の電報線は上海廣東間の一部にして杭州へも開通すれども未だ海外電報を取扱ふに至らず即ち日本へ向て打電せんと欲せば上海の知人をして仲繼せしむるの別途なく信書も亦直接海外に郵便するの便宜なし支那内地に對する郵便は路の遠近によりて一定せず總て民間私設の信局と稱する處にて取扱ふものにして何れも郵便先拂の仕組なれば信書不着の憂少なからざるに必要の信は依託の際五錢乃至十錢を拂ふて書留を爲し紛失の責に任せしむるを得、余は上海に書留を送りたる際五錢を出して書留郵便と爲したるが先方に到着したる際集配人は又五錢を要求したるよし然れども各開港場には工部郵便局、税關郵便等の組織ありて西洋流の方法行はれつゝあれば何れ蘇州も亦遠からずして改正せらるべし此等の不便は今日の現況を以て後來を卜するを得ざるべし況して此地に領事館を置き郵便局を設けたる時、は更に上海と異なる處なきは又嘆々を要せざる次第なり 蘇州に古跡多し、此地示本古跡多く寒山寺の如きは其